

エンカレッジ

道教委では、毎年、高校生の学力を把握するため学力実態調査を行っていますが、その結果を見ると、基礎学力の不足という問題が浮かび上がって来ます。

その原因は、義務教育段階で身に付けるべき基礎基本を身に付けないまま、いわば心太のように押し出されて高校に進学しているという実態にあります。それを許しているのは、高校全入時代を迎え、特別勉強しなくても高校には入れるという現実にあります。

基礎学力がないまま高校生活を続けても、高校生としての授業についていけず、お客さんのままで卒業してしまう高校生も少なくないと思われます。

中途退学の原因の一つは、授業についていけないことにありますから、生徒に授業を面白いと感じさせ、授業への参加意欲を高めることが出来れば、中途退学を減らすことが出来るでしょう。

現在、東京都では、都立高校の「エンカレッジスクール」が人気を集めているようです（7月27日付日経新聞）。この「エンカレッジスクール」というのは、学力に不安のある生徒に基礎から教えようとするもので、小中学校の内容から学び直すのが特徴とされており、現在、都立足立東高等学校他5校が指定されています。一般入試の状況を見ると、全日制の平均の応募倍率が約1.5倍であるのに対して、前述の足立東高等学校は約2.6倍、「エンカレッジスクール」の一つである練馬工業高校は約2.7倍と高い人気を得ています。その人気の理由は徹底的な基本学習にあるようです（7月27日付日経新聞）。

また、「エンカレッジスクール」では、学び直しに加え農業体験活動など生徒の登校意欲を高める取り組みも行っています。

「エンカレッジスクール」では中途退学者が減少しているといわれていますが、それも、こうした取り組みの成果といえます。

ただ、進路が定まらないまま卒業する生徒が全日制普通科の生徒と比べると多いという実態にあり、キャリア教育の充実が課題といえそうです。

北海道でも、札幌白陵高等学校が1年生を対象に、中学校の教科内容を教える学び直しに取り組み、成果を上げていると聞きます。

「学び直し」に取り組んでいる学校は他にもありますが、特徴的なのは、独自の科目を設け、正式の授業として行っていることにあります。白陵高等学校ではキャリア教育にも力を入れていますので、「学び直し」と共に、その成果に期待しているところです。

「エンカレッジ」というのは、

- ・ 勇気づけること。励ますこと。
- ・ 発達などを促進すること

を意味していますが、高等学校における「学び直し」の取り組みは、義務教育段階での学びの不足が招いた、いわば緊急避難的なもので根本的な解決策ではありません。

小学校や中学校という義務教育の段階で学ぶべき内容は、それぞれの小学校や中学校においてしっかりと身に付けさせることが基本であり、本道においては、結果において、そうした取り組みが十分とはいえません。子ども達の発達段階に応じて、学ぶべき内容をしっかりと学ばせ、身に付けるべき基礎基本をしっかりと身に付けさせてこそ、学校はその責任を果たし得るというものであり、その意味では、全ての学校が「エンカレッジスクール」であるべきだと考えています。（塾頭 吉田 洋一）